

平成30年度12月教育委員会 会議録

開催日時	平成30年12月21日(月) 15:00~17:00	
開催場所	町民総合会館 2階 研修室	
出席者	委員	徳山順子教育長、大森茂委員、綾野克紀委員、竹井成範委員、栗坂祐子委員
	事務局	黒木克美生涯学習課長、貝畑和明学校教育課長、猪木浩二課長補佐、石原知子係長
会議次第	1 開会 教育長あいさつ 2 議事・報告案件 (1) 早島町立幼稚園園則の一部改正について (2) 2学期の長期欠席・不登校の状況について (3) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について (4) その他 3 連絡	
会議資料		
傍聴者	なし	
会議録作成者	大部 桂嗣	

会議内容

<p>1 開会</p> <p>教育長あいさつ</p> <p>教育長：今日は終業式で、各学校園とも2学期も充実した日々だったと思います。教育委員会では、明日のはやしま英語暗唱大会が終われば2学期の行事が終わりとなります。第1回花ごぞピンポン世界大会も無事終わり、大盛況で、取り組んでよかったと思っています。中高生や留学生の実行委員会も真摯に取り組んでくれ、大いに盛り上げてくれました。県知事さんも、中高生の活躍や花ごぞピンポンの取組に、とても喜んでくださり、早島にとってもよい大会となりました。中学生の起業体験事業では、い草の商品開発をしており、い草の入浴剤やスマホケースを開発することとなりました。1月27日(日)の早島マラソン・駅伝大会で、商品売ることになっていますので、こうした成果を1月23日(水)のPTA研修大会(シンフォニーホール)で、中学校代表として発表します。中学生の成長がとても楽しみです。本日もよろしくお願いします。</p> <p>2 議事・報告案件</p>
--

教育長：平成27年に教育委員会制度が変わり、新教育長として、早島町教育長となったが、平成30年12月26日に3年の任期がきました。12月議会で再任議案が通り、引き続き、どうぞよろしくをお願いします。

(1) 早島町立幼稚園園則の一部改正について

教育長：現園則では、園児定員が225人となっており、平成9年から3歳児を受けいれている。4・5歳児は35人で1学級なので2クラスで70人、3歳児は25人で1学級なので、2クラスで50人、3クラスで75人。3歳児は3クラスまで、4・5歳児は2クラスまでの7クラスとなる。225人で、人数設定をすると、教室数が足りなくなることがわかった。県への訂正をするのと、年齢ごとに人数や学級数が明記したい。3歳児は25人程度、4・5歳児は35人以下であることを追加する。今は全年齢が2クラスずつ。1学年50人程度、全体で150人程度。14時からの預かり保育は50～60人で人数が増加傾向にある。支援員は2人だが、50人を超えともう一人必要なので、現在募集をしている。幼稚園の定員は210人となる。

綾野委員：3歳児を受け入れるようになったのはいつから。

教育長：平成9年からである。

(2) 2学期の長期欠席・不登校の状況について

石原係長：毎月10日には学校から長期欠席・不登校の児童生徒数について報告を受けるが、これか11月末までの欠席日数をまとめたものだ。国では、小中学校で30日以上欠席している児童生徒を「不登校」と定義している。また、欠席日数20日を超える児童生徒や、昨年30日以上長期欠席の児童生徒についても報告を受けている。小学校では、適応指導教室に通っている児童の欠席が減っている。小学校には、2名の登校支援員をつけており、校門での声かけや家庭訪問等を行っていただいている。月3日を超える欠席や連続した欠席があった場合には、必ず電話連絡、家庭訪問という流れで登校支援員にも関わってもらっている。学校からも積極的にアプローチをしていきたい。中学校では、「心の教室」にも通えるようになっており、心の負担を少なくしている。町の適応指導教室では、他学年と共に遊んだり勉強したりすることで生活リズムを整え、学校へつながるようにしている。小・中学生の不登校生徒への支援やサポートをするために、2ヵ月に1回不登校対策担当者会を開き、情報交換や支援の共有を行っている。

竹井委員：何日欠席すると卒業できないなどの決まりがあるのか。

教育長：日数の決まりはない。進級・卒業認定会議において、進級や卒業については、本人や保護者の意向を聞き、学年や学級担任の意見を踏まえ、最終的には校長が判断し、決定する。

栗坂委員：不登校の子どもが対外的に何か迷惑をかけるということはないので、学校の対応が少ないというところもある。早島のようにしっかり関わりをもち、丁寧に対応してくれるというのは、とてもありがたい。そうやってたくさんの方が関わってくれているとい

うのはその子にとっても忘れないこととなると思う。自分のことを忘れないで関わってくれる人がいるのは、長期的に見ても大切なことだと思う。これからも丁寧な関わりをお願いしたい。

(3) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

石原係長：この全国体力・運動能力調査は、全学年で実施しており、公表対象は小学校5年生と中学校2年生である。経年比較を見ると、年々課題が広がっている。小学校については、握力、長座体前屈が悪く、反復横跳び、立ち幅跳びは全国平均を超えている。男女では、男子は総合点が全国平均より高いが、女子は昨年に続き全国平均より低い。種目別では、反復横跳びなどの瞬発力系の種目は全国平均より高いが、握力、長座体前屈、シャトルランが平均より低い。中学校では男女ともに上体起こしやシャトルランが全国平均より低く、小学校と中学校との相関でみると、小学校では握力が弱かったのが中学校では回復し、小学校では上体起こしは、そこまで低くないが中学校では低くなっている。中学校の総括は、体力合計点は男女ともに全国平均より高く、高い種目が多いが、上体起こしとシャトルランは全国平均より低い。1週間の総運動時間が60分未満の子供が増え、運動時間の減少していることがわかる。保健体育の授業が楽しいと感じる児童生徒は男子に比べ女子が低く、小学校に比べ中学校に低い傾向が見られる。こうしたことを踏まえて、現在、体力向上や運動習慣の改善策に取り組んでいるところである。

また、県内の市町村との比較だが、早島町は県内ではやや高い傾向であり、特に握力が高い。学校でも、ビジョン推進委員会の「からだ部」が、保幼小中で体力向上を図る取り組みを行っている。調査結果をもとに、学校の方針を定め、体力向上に取り組みたい。ボルダリングやスラックラインも導入しており、効果的に活用し、体幹を鍛えたい。

教育長：今年スラックラインとボルダリングを導入し、地域の方やスポ少の方にも活用していただきたい。

大森委員：町の中での分布はどうなっているか。

竹井委員：昔は都窪郡での運動の大会があったが今もあるのか。

石原係長：陸上と水泳は倉敷地区での大会があり、参加している。

栗坂委員：体を動かすのが好きな子どもと嫌いな子どもで二極化しているのではないか。

教育長：体力向上や運動習慣は生涯スポーツにつながるものであり、小中時代に心と身体をしっかりと鍛えていくことは大切なことだと考えている。

3 連絡

- ・ 1月教育委員会（授業参観後に、開催）

日時 1月25日（金）14時～16時

場所 早島小学校で開催予定

